

平成27年度の

新規事業化を目指して

『国道34号大村・諫早間整備促進総決起大会』

11月16日、さくらホールで「国道34号大村・諫早間整備促進総決起大会」を開催しました。会場には約550人の参加があり、地元
の熱い思いを発信するため、官民が「致団結し、「平成27年度新規
事業化」に向けた決議を行いました。また、国会会期中にもかかわらず、地元選出の国会議員の皆さまをはじめ、県知事や大村・諫早
両市選出の県議会議員、国土交通省九州地方整備局長にご出席
いただきました。

総決起大会を契機に



谷川 弥一
衆議院議員

国土交通省には、国道34号を
拡幅するため、これまでずっと働き
かけていますが、同じように困つて
いる自治体が全国から数多く要
望にきます。その中から選んでも
らうためには、「この道路の拡幅が
本当に必要なんだ」と地元から声
を上げることが重要です。このよ
うな総決起大会は最も効果的で
あり、影響力があります。これから
も国道34号に予算が付くよう精一
杯がんばっていきます。

都市間のネットワークを 生かすために



金子 原二郎
参議院議員

大村と諫早が一緒になってこれ
だけの総決起大会を開催したの
は初めてです。これからの時代は、
都市間のネットワークを互いに利
用し、全体が連携する時代です。
その二つに、長崎医療センターの救
急搬送の体制作りを進めてきま
した。しかし、付近の道路事情から、
その機能を十分に果たしている
とは言えません。地元の声を国にも
理解していただき、私たち県選出
の国会議員が協力して平成27年
度に予算化します。

道のないとこに産業 の発展はありません



加藤 寛治
衆議院議員

地方の活性化を図ることが、日
本創生につながります。地方を活
性化させるため、最も重要なのは、
道路交通網整備であり、道のない
ところに産業の発展はありません。
その思いを胸に、両市の国道整備
促進について、皆さまとともに取
り組むことを約束します。

地方の豊かな暮らしの ために



末吉 光徳
前衆議院議員

東京にお金と人間が集中して
いますが、地方で生涯を過ごすこ
とが一番理想的で、国民が幸せに
なると感じています。私たち国会議
員も団結してがんばっていきます。

故郷の住みやすさの 基盤をつくる



古賀 友一郎
参議院議員

私にとって、国道34号は子ども
の頃からなじみ深く、愛着がある
道路ですが、昔からよく渋滞し、時
間が読みにくいと実感しています。

103万台以上という数字が全て
を物語っています。私も早期事業
化に向け全力を尽くします。

本県の大道脈の整備 に向けて



中村 法道
長崎県知事

地理的ハンディを負い、人口減
少や地域活力の低下などの課題
に直面している本県にとって、産業
振興や地域の活性化を図るため
交通体系の整備は喫緊の課題で
す。このため、国道、県道の整備促
進に力を注いできました。国道34
号は本県の大動脈であり、県内の
経済活動や市民生活を支える重
要な路線です。県も当期成会と一
体となつて新規事業化の実現に、
全力を注いでいきます。

地域の思いを届ける



尾 健司
国土交通省
九州地方整備局長

鈴田峠付近は特に朝夕の渋滞
が著しい状況です。これを受け、
今年度から事業方針を定めるた
め、計画段階評価に着手し、7月
に1回目の委員会を開催しまし
た。今後、住民や企業などの皆さ
まの課題や意見を踏まえ、引き続
き手続きを進めていきます。



地元意見発表

災害時の緊急物資輸送を経験して



馬場 邦彦
長崎県トラック協会
大村支部長

平成3年の雲仙火砕流災害を皮切りに、東日本大震災や、広島での水害など、トラックを現地に送り、緊急物資を輸送する支援を行ってきました。日本全国、いつでも、どこでも、どれくらいの規模の災害が起こるかは誰も予測できません。その発生の確率は、年々確実に高くなつていると実感しています。

私は、国道34号は長崎空港がある大村市内から諫早・長崎市、さらに島原半島を結ぶ「産業道路」、県民市民の生活を守る「主要幹線道路」、災害時の重要な「物資輸送道路」、この3点の大きな役割があると考えます。

大村には海上陸上自衛隊、県消防学校が配備されています。さらには、長崎医療センター、大村市民病院も設置されており、緊急災害時に国道34号が寸断されるといふ事態が生じた場合、負の影響は計り知れないものがあると確信しています。

国道34号は、人と物が流れる「長崎県を守る命の道路」として、大切な役割を担っています。

救急救命搬送の現場から



渡邊 博
諫早消防署3隊
救急兼救助隊長
消防司令補

から与崎交差点付近まで激しく渋滞し、思うように進めません。「急いでください！」と焦る医師の声もむなしく、到着まで18分もかかってしまいました。

1分1秒を争う救急現場での3分という時間は、まさに致命的です。その後、「なんとか赤ちゃんの命は無事でした。」との医師の言葉で救急車内は安堵感に包まれたものの、救急隊員の疲労感には隠せませんでした。

このような例は多くの救急隊員が経験しています。両市間の国道34号の整備は、緊急搬送される傷病者の予後に大きく影響していることに間違いありません。

大会決議

一般国道34号は、佐賀県鳥栖市を起点とし東彼杵町、大村市、諫早市を経て長崎市を結ぶ、長崎県を南北に縦断する幹線道路であり、長崎県内の主要都市相互間を連絡し、社会、経済、文化活動に大きな役割を果たしている。

現在、大村幅の86%にあたる約3.2kmが供用し、所要時間の短縮や渋滞緩和による利便性の向上が図られており、残り区間の480mにおいても事業着手がなされている。

しかしながら、大村・諫早間の与崎から本野入口間約5kmにおいては、現状2車線となっており、交通量の増加や慢性的な渋滞の発生に伴って、経済発展への支障はもとより交通事故の増加や排気ガスなど、沿線の環境悪化も懸念され、一日も早い事業化を実現し、県央地域の交通ネットワークの整備を図るとともに、観光振興や産業振興など地域振興につなげていくことが重要である。

長崎県の中央に位置し、県内の拠点都市を結び、活力ある都市機能を支える国道34号大村・諫早間の早期事業化を図るため、国におかれましては次の事項において、特段の配慮がなされるよう強く要望する。

1. 国道34号大村・諫早間の平成27年度新規事業化
2. 道路整備に必要な財源の確保

以上、決議する。

平成26年11月16日

国道34号大村・諫早間整備促進期成会



要望活動

11/12

国道34号大村・諫早間の4車線化などを要望

官民で組織する「国道34号等大村市内幹線道路整備促進期成会（会長松本市長）」は、県選出国会議員や国土交通省に対して要望活動を行いました。

松本市長をはじめ、角谷商工会議所会頭や村上市議会副議長が、国土交通省の徳山国土交通技監に直接面会し、長年の懸案である国道34号大村・諫早間の「平成27年度新規事業化」に向けて、地元の切実な声を届けました。

今後引き続き、県や関係機関と連携を強化し、幹線道路網の早期整備を目指し強く要望していきます。

